元気とタイムリーな情報を提供する
五十嵐レポート
発行:「町コン」五十嵐　勉　　平成29年10月09日　第839号「週刊五十嵐レポート」

社長は最高の知識労働者

当社主催、銀座校（曲渕税理士事務所）主催を含め、10月4日、5日、6日の3日間、師の竹田陽一氏の講演を聴いた。

中小企業（規模が小さい、競争条件が不利）は常に苦戦する。会社自体に固定給はなく、完全な歩合給。どんな業界にも多数の競争相手がいる。大きく、強い会社が何社もいる。ゴルフや将棋のようにハンディキャップはない。大きな会社から強い圧迫を受け、必ず苦戦する。時間が経過すると小さな会社から淘汰されていく。これが現実。

生き残っていくための社長の条件は、弱気な発言をしない、悲観的にならない、強い心。業績を良くして良い会社にするという願望と熱意、そして向上心と研究心。大きな会社から強い圧迫を受けないためには特別な対策を打たなければならない。ランチェスター経営ではこれが「弱者の戦略」になる。

野球の視点から野村克也氏の「弱者の流儀」（ポプラ社）がある。「これだけは誰に負けないという強みを見つける。そうすれば生きる道は自ずと開けてくる」。「正しい道を示してあげて『徹底させる』というプロセスを踏ませることで『結果』はついてくる」。「監督の仕事を試合中の『采配』だと思っている人が多い。だが違う。監督の仕事は『準備』である」。「試合が始まったら、プレーをするのは選手たち。そこまでにどれだけ選手に指導・教育をしているのか。その結果が試合に出る。監督の指導ができていなければ、試合で選手は考えて動くことはできない。指導がしっかりできれば、選手は指示を出さなくても勝手に仕事をする。試合は監督にとって、それまでの指導の成果がどれだけ出ているか試される場と言える」。

野球も経営も結果が全てではあるが、どちらも正しいプロセスがなければ、結果は続かない。では、正しいプロセスとは、強いもの作り、1位作りになる。特徴あるものを発見し、磨いて強いものへ、さらに磨いて一番へ。強いものをつくるために、人を配置し、教育訓練していく。強いものへ資金を配分。これらのプロセスを経て、いい結果を残していく。社長しかできない最高の知識労働である。

ちょっと気になる出来事

10月6日付、日経新聞朝刊のトップに
「大廃業時代の足音　中小『後継未定』127万社」という記事。

「中小企業の廃業が増えている。後継者難から会社をたたむケースが多く、廃業する会社のおよそ5割が経常黒字という異様な状況。2025年に6割以上の経営者が70歳を越えるが、現状で中小127万社で後継者不在の状態にある」。

この記事を見たある社長、
「これはチャンス。社内で経営者を育成する。企業を買収していく。これからは経営者教育に力を入れる」と。

これからは、M&A業務が大流行になる。

一口メモ
知識

何を目標とすべきか

社長から工場の現場管理者や事務主任にいたる全員が、明確な目標をもつ必要がある。それらの目標は、自らの部門が生み出すべき成果を明らかにする。他の部門の目標達成を助けるために、自らや自らの部門が期待されている貢献を明らかにする。そして、自らの目標を達成するうえで、多の部門からいかなる貢献を期待できるかを明らかにする。

最初の段階から、チームワークとチームの成果を重視する。そのような目標は、企業全体の目標から導かれる。

ある企業では、会社全体の目標と生産部門全体の目標の詳細を、現場の小さな一部門にいたるまで示すことによって、成果をあげている。

マネジメントとは、自らの行動によって全体への責任を取る者、すなわち石を切ることによって教会を建てる者のことである。

P.F.ドラッカー　「チェンジ・リーダーの条件」より

●「戦略社長塾東京」小岩校　毎週日曜日　午前10時～12時
●「戦略社長塾東京」小岩校　毎週水曜日　午前10時～12時
●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校　開講中。
㈱五十嵐コンサルティングオフィス　〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703　Fax03-3659-7077　i-daruma@igarashireport.com